

第1回 神奈川県営水道事業審議会 水道料金部会 議事要旨

日時

令和4年5月20日（金曜日） 13時30分～15時30分

主な議事内容

- 県営水道料金の現状について確認を行った
- 懇話会意見書で言及されている「口径別料金体系」の影響を試算した簡易シミュレーションについて議論を行った
- 地下水使用に関する全体想定水量の推移及び区域別使用動向について議論を行った

水道料金部会の運営

- ▶ 委員の互選により、太田委員が部会長として選出された。
- ▶ 太田部会長から、前身の県営水道懇話会でとりまとめた意見書を踏まえた議論を行っていききたいとの方向性が示された。
- ▶ 会議の非公開について全会一致で決定された。

主な意見（議事要旨）

- ▶ 今回はあくまでも、現行体系の決算額を基に、料金体系による影響がどのようなものであるかを試算したものと理解している。日水協が作成した算定要領では、平均的に使用したとされる部分の費用はすべて変動費として回収するという考え方だと思うが、その場合も固定的原価はかかっているわけで、それらをすべて変動費に計上するという考え方が、今の水需要の動向に合っていないと思う。算定要領の考え方をそのまま適用するのは難しいのではないか。
- ▶ 工業用の使用水量や料金収入が減っていく中で、家事用のこういった部分の人たちに負担が大きくなってしまわないのか。今後の議論の適切なタイミングで、将来の需要予測を踏まえた料金体系の全貌を見ていきたい。
- ▶ 使用水量の減少幅より収入の減少幅が大きいという現状にあり、少なくとも減少幅をイコールにできないか。
- ▶ 今までの逡増制料金体系は、基本的に「大口需要家の需要抑制」と「小口需要家の福祉的要素」について利用者間の内部補助により完結する考え方であったが、現在、特に「大口需要家の需要抑制」については社会的必要性が非常に薄れてきている。大口需要家からの内部補助で賄うという発想のままでは、料金体系自体の持続可能性が損なわれるリスクがある。